

2022年 コロナ禍における 全国看護学生アンケート結果

全日本民主医療機関連合会 <https://www.min-iren.gr.jp/>
きらり看護 <https://kirarikango.com/>

2022年10月4日

PRESS Release



全日本民医連



ABOUT US 全日本民主医療機関連合会について

全日本民主医療機関連合会(民医連 min-iren)は、

無差別・平等の医療と福祉の実現を目指す民間の医療・介護事業所等が加盟する全国組織。(1953年創設)47都道府県に事業所があり、職員数はおよそ8万3千人。看護専門学校は8校〔北海道・秋田・山梨・東京(千葉)・京都・大阪・岡山・福岡〕。

全国で毎年千人を超える看護職員を迎え入れており、学生時代から共に育ちあう為の企画や交流も重視しています。学業をサポートする目的で、加盟事業所の方針や人事政策に沿った独自の奨学金制度も運用しています。

<https://www.min-iren.gr.jp/ikei-gakusei/kangakusei/index.html>

全日本民医連

■ 民医連の組織現勢

全日本民医連加盟事業所数
2022年1月現在

| 区分 | 事業所数 |
|-------------|-------|
| 病院 | 142 |
| 有床診療所 | 12 |
| 無床診療所 | 474 |
| 歯科診療所 | 78 |
| 訪問看護ステーション | 234 |
| 保険薬局 | 349 |
| 薬剤・診療材料センター | 33 |
| 看護・介護学校 | 8 |
| 検査センター | 2 |
| 老人保健施設 | 51 |
| 介護医療院 | 1 |
| 在宅介護支援センター | 24 |
| 特別養護老人ホーム | 37 |
| 鍼灸所 | 3 |
| 研究所 | 2 |
| ヘルパーステーション | 51 |
| グループホーム | 21 |
| 在宅介護福祉関係 | 212 |
| ケアハウス | 11 |
| その他 | 13 |
| 合計 | 1,758 |

調査目的など

過去2回の調査から（2020年・2021年）、コロナ禍で看護学生の学ぶ環境が更に厳しくなっている事が明らかとなり、国に学生支援緊急給付金の支給・拡充などを求めてきた。しかしパンデミック第7波では「これまでとは状況が異なっている」（文科省）等として、昨年度までの給付措置がなされなくなった。今回は加盟看護学校の学生とも懇談し、当事者の意見を聴取した上で看護職を目指す学生の学ぶ環境の改善を目的に改めて実態調査を実施した。回答は過去2回を大きく超える、45都道府県1,556名の看護学生からの協力を得た。

名称：2022年コロナ禍における全国看護学生アンケート調査

調査目的：コロナ禍における看護学生の実態把握を行って教育学習環境を改善する

対象：全国の看護師等養成所の学生（看護学生）

調査期間：2022年6月～8月末

調査方法：googleフォーム（看護師等養成所への直接の依頼、SNSなどで広めた）

◎調査は無記名で行い、個人が特定できないように集計・分析した。

全日本民医連

報告の柱

I. 経済状況について

II. 奨学金について

III. アルバイトについて

IV. 要望

<集計概要>

- 45都道府県**1,556**名の看護学生より回答を得た

| | 回答者の学校種別 (2022年9月1時点) | | |
|-------|--------------------------|-------|-------|
| | 公立 | 私立 | 合計 |
| 4年制大学 | 3.3% | 16.6% | 20.0% |
| | 私立 | | |
| 短期大学 | 0.3% | 3.4% | 3.7% |
| | 私立 | | |
| 専門学校 | 19.0% | 52.0% | 71.0% |
| | 私立 | | |
| 5年一貫校 | 1.0% | 3.9% | 4.9% |
| | 私立 | | |

※比較データとして、2022年・2021年調査を引用した。

○実施期間

2020年8月(回答数：1,127名) 2021年9月(回答数：1,347名)

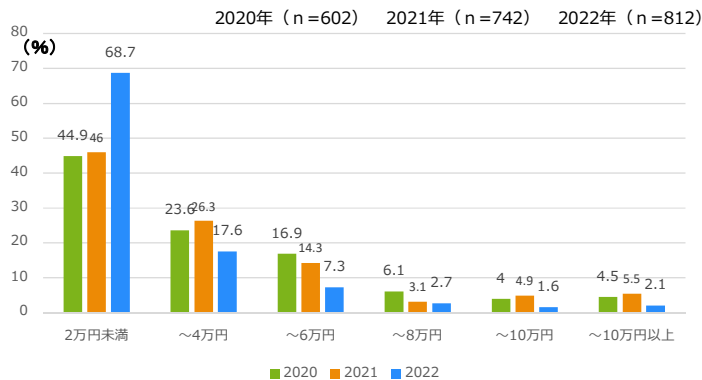
全日本民医連

I 経済状況について

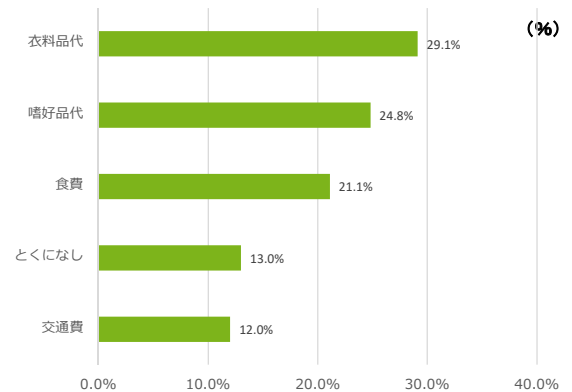
1. 親などからの経済的援助を受けていますか？ (n=1,542)

援助を受け(られ)ていない学生 42.3%

2. 親からの経済的援助の、1か月のおおよその金額はいくらですか？ (仕送り・お小遣い等)



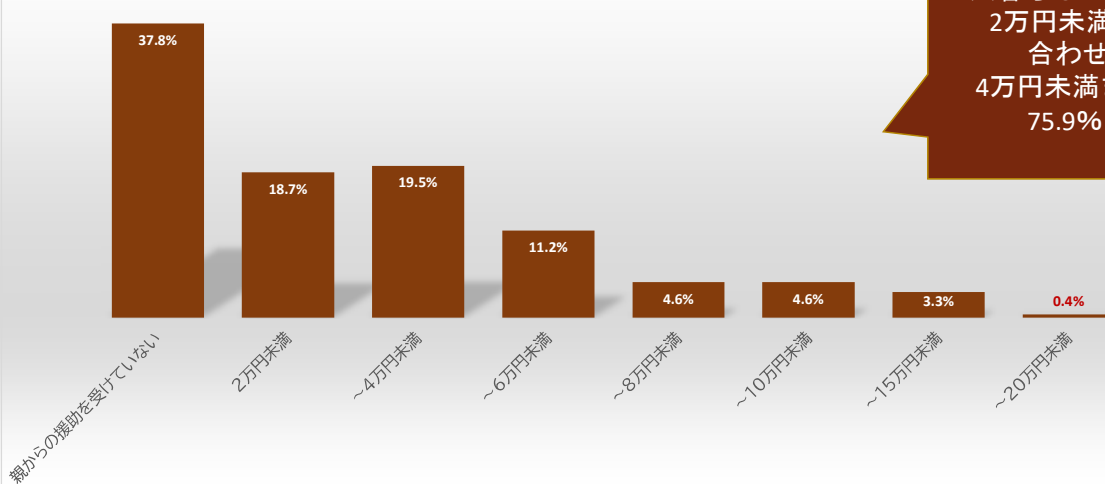
3. 経済的にゆとりがない方は、何を節約していますか？ (n=1,277)



全日本民医連

親などからの経済援助について ひとり暮らしの学生の場合

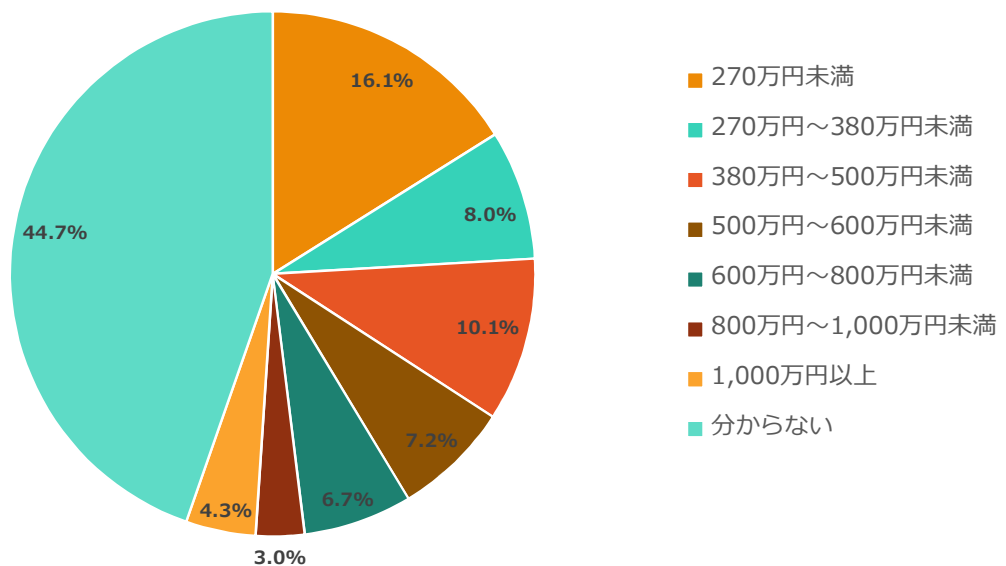
一人暮らし(子と2人暮らし合)の方を抽出
n241



一人暮らしの学生で見ても、
2万円未満と援助無し
合わせて56.4%
4万円未満までで見ると
75.9%だった。

4.世帯の年収を教えてください(自身のアルバイト収入をふくめない)

(n=753)



全日本民医連

7

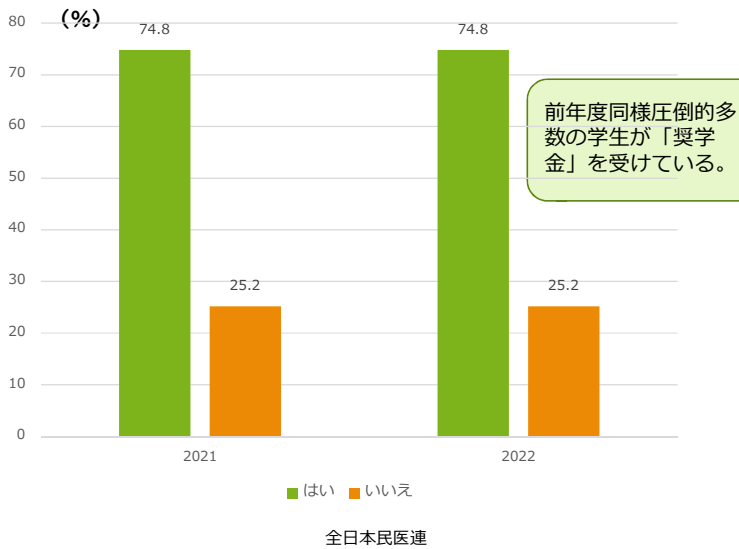
I 経済状況について 小括

- ① 親からの援助を受けられない学生が4割以上。一人暮らしの学生でも同様の実態であった。
- ② 親からのいわゆる仕送り金額は2万円/月未満が7割近くまで増加。
- ③ 節約品目は「衣料品」「嗜好品」に次いで「食費」を切り詰めていた。

Ⅱ 奨学金について

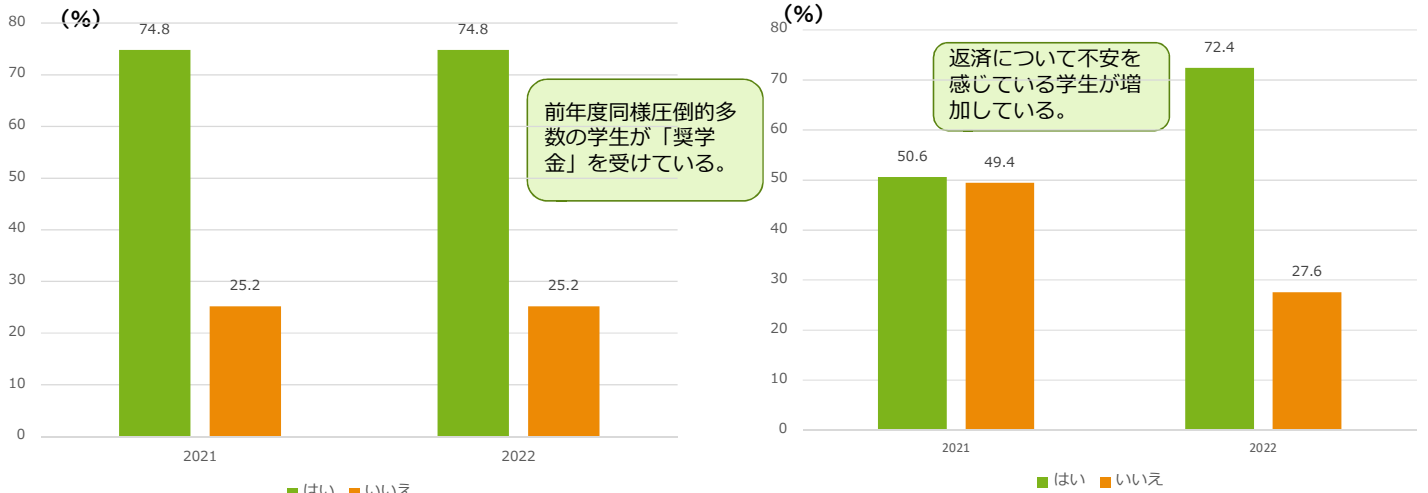
1. 奨学金を受けていますか？

2021年(n=1,331) 2022年(n=1,548)

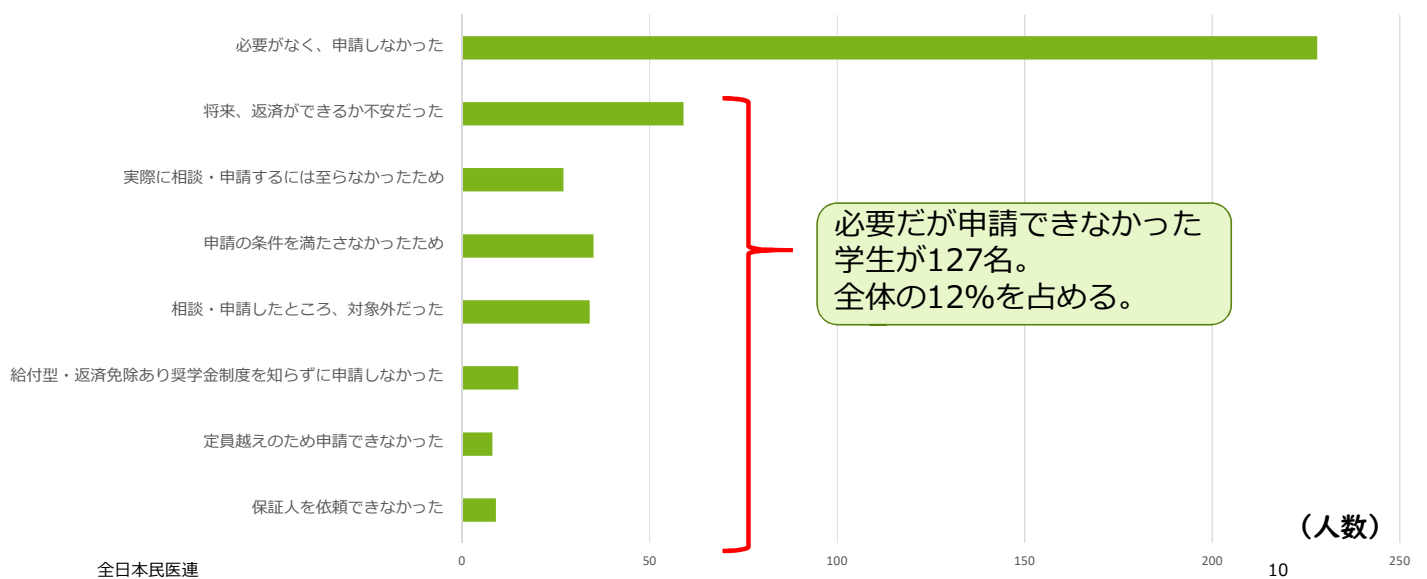


2. 奨学金の返済について不安を感じていますか？

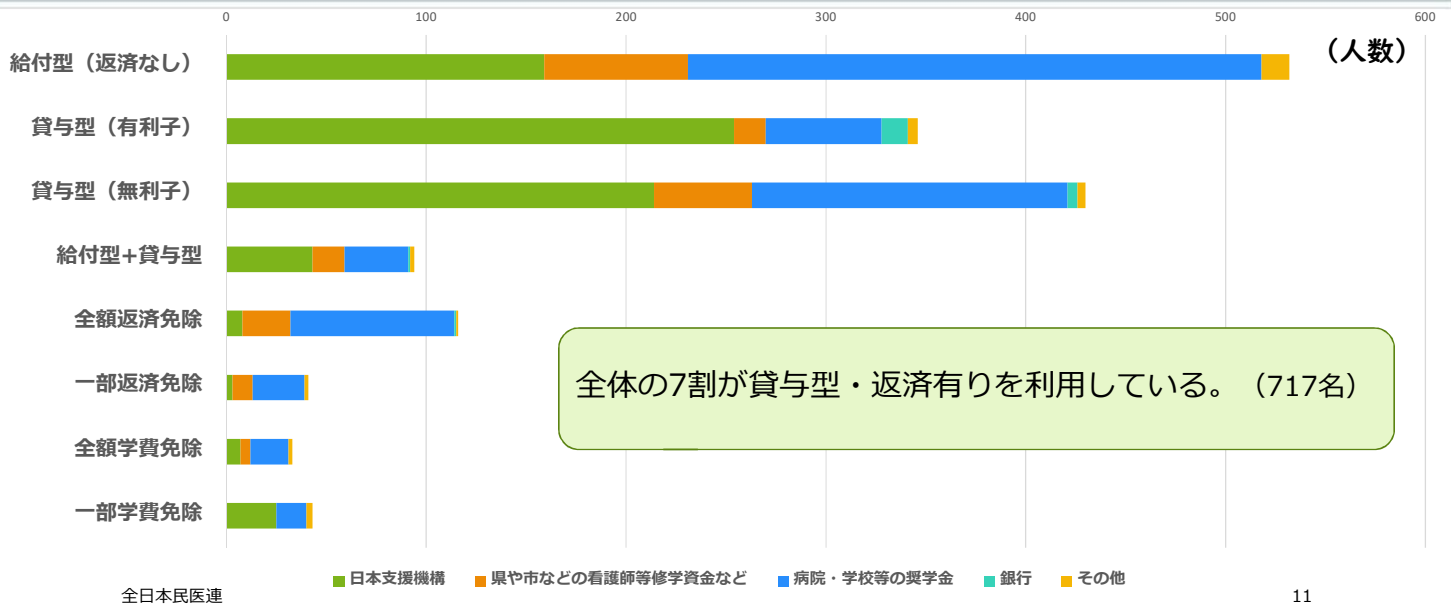
2021年(n=969) 2022年(n=1,130)



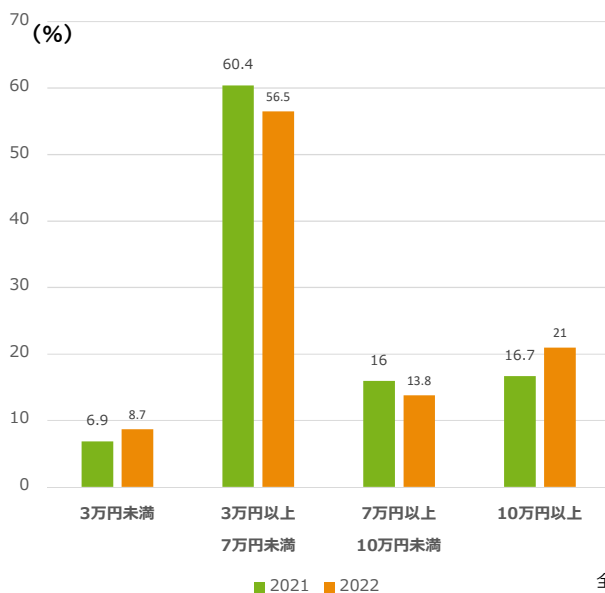
3. 奨学金を受けていない理由は何ですか？(複数回答可) (n=381)



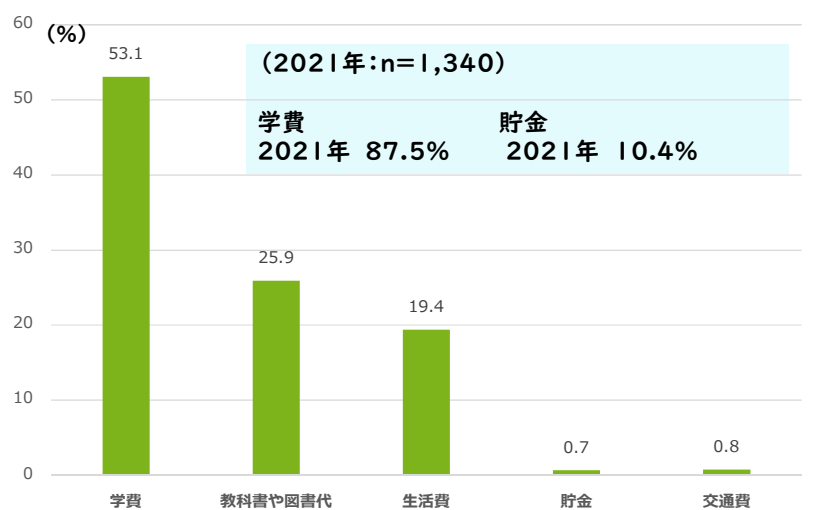
4. 受給している奨学金・貸付金についてお答え下さい(複数回答可) (n=1,003件)



5. 奨学金の受給額(月額)をお答えください。(n=1,089件)



6. 奨学金の主な用途(複数回答) (n=1,049件)



Ⅱ 奨学金について 小括

- ① ほとんどの学生が「奨学金」を受けなければ進学できない状況にある。
- ② 受けていない学生の内訳を見ると、本当は受けたかったが諸般の事情で受けられなかった学生も少なくなく、圧倒的多数が必要としている事がわかる。
- ③ 貸与型(学生ローン型含む)が多数を占め、国際人権規約第13条【教育に対する権利】に明記されている *fellowship system*(返済義務なしの奨学金制度)の方が日本では少数である。
- ④ 返済に対する不安を抱いている看護学生が前年度5割から7割へと大幅に増加していた。

Ⅲ アルバイトについて

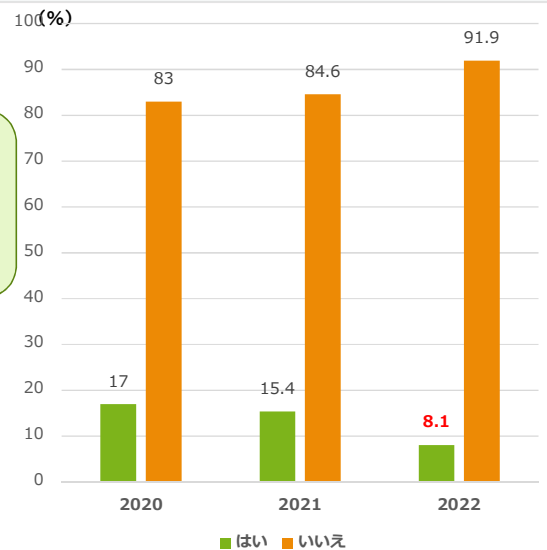
1. アルバイトをしていますか？

2020年 (n=1,116) 2021年 (n=1,335) 2022年 (n=1,552)



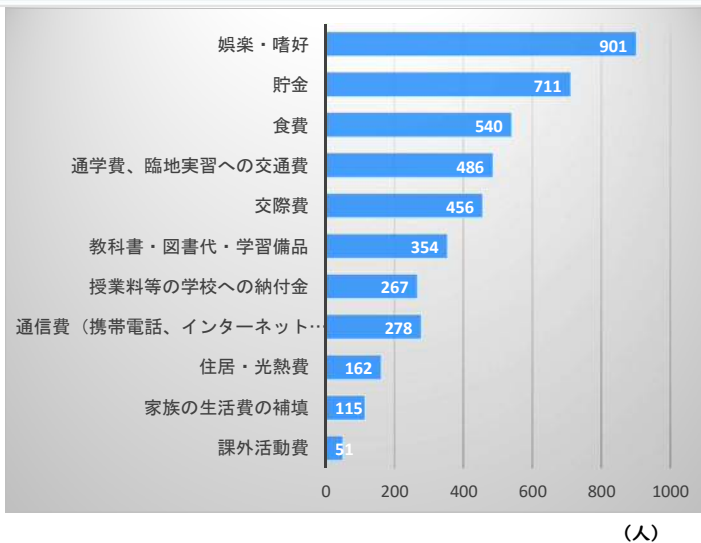
2. 実習時にアルバイトをしていますか？

2020年 (n=559) 2021年 (n=681) 2022年 (n=1,333)



3. アルバイトの目的について(複数回答)

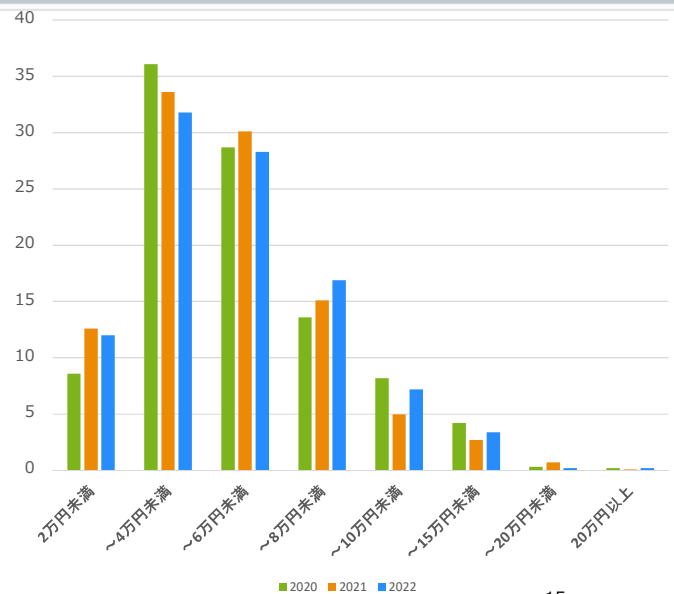
(n=976)



全日本民医連

4. アルバイト収入(月額)はいくらですか?

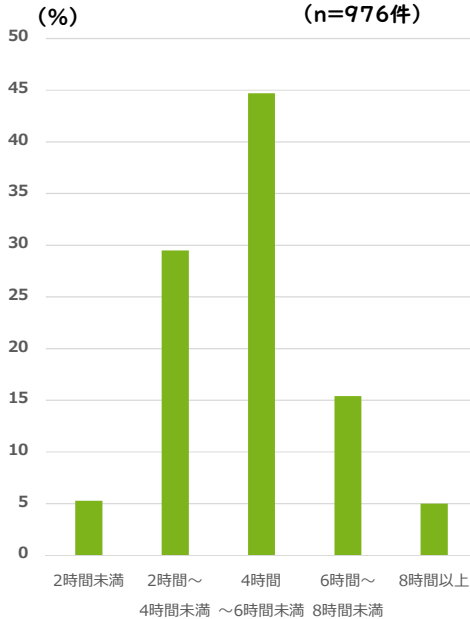
(%) 2020年(n=595) 2021年(n=675) 2022年(n=976)



15

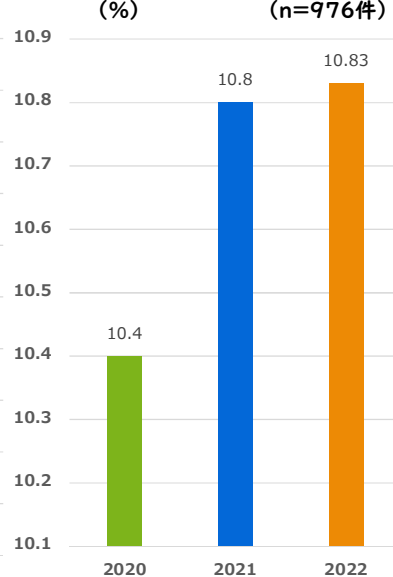
5. 一日のおおよその平均アルバイト時間は何時間ですか?

(%) (n=976件)



6. アルバイトの日数について(月平均)

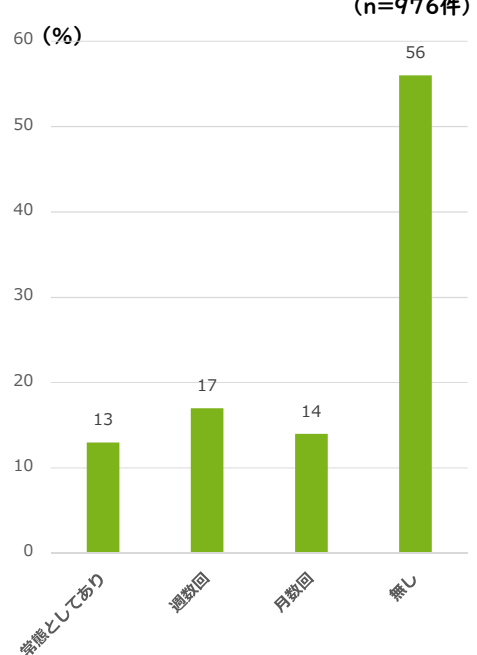
(%) (n=976件)



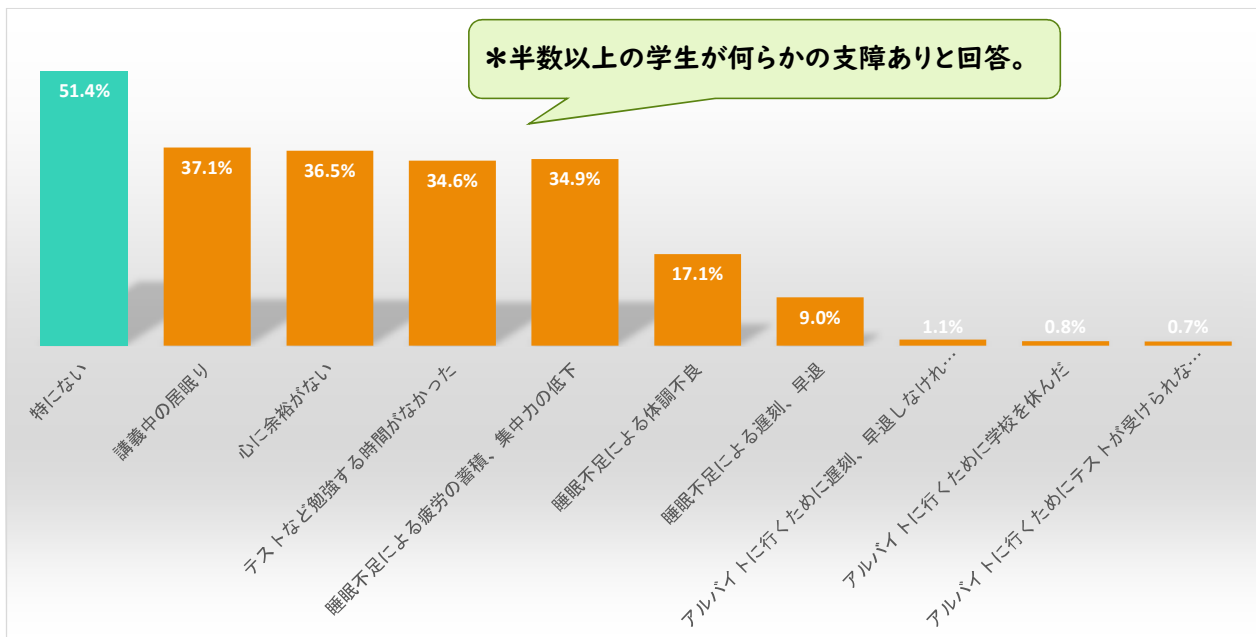
全日本民医連

7. 深夜時間帯(22時~翌朝5時)のアルバイトはしていますか?

(%) (n=976件)



8. アルバイトによって、学業などに支障がありましたか？（複数回答）（n=976件）



Ⅲ アルバイトについて 小括

- ① 前年度まで2回の調査では「アルバイトしている」「していない」は拮抗していたが、今回は「していた」「する予定」含めると8割を超えた。
- ② 看護学生等医療職を目指す学生は“実習”が必須であり、実習前と実習中は新型コロナ感染予防の為アルバイトは禁止されている(年1/3程度の長期間)。それ故に緊急給付金の必要性がより高いわけだが、それでもアルバイトせずには学業も生活も継続できない実態が浮き彫りとなっている。
- ③ 一日平均6時間～8時間、8時間以上と答えた看学生は2割を占めた。同様に深夜時間帯のアルバイトも決して少なくない。
- ④ 故に学業に支障をきたしたり、体調を崩している学生が散見され、経済的不安により学業に専念できていない。

Ⅵ 学生の要望

● 国や自治体に対して要望したい事はなんですか

※要望が多い上位3つ

(n=1,422)

① 現金支給（緊急給付金など） 966名

② 授業料の引き下げ 810名

（養成校への公的助成の増額）

③ 授業料の減免制度の拡充 527名

全日本民医連

調査分析の概要

1. 「奨学金」「貸付金」を受けている学生が7割を超え、「受けていない」学生もその内訳を見ると「本当に必要なかった」のは6割程度で経済的支援(借入金含)無くしては日本の看護師等養成校では学べない。更に、返済不安を感じている学生の割合は5割から7割へと昨年よりも大幅に増加していた。

2. 経済的ゆとりが無い時には衣料品(3割)、食費(2割)を節約と回答。アルバイトをしている看護学生は8割と大幅に増加しており、1日平均6時間以上が2割、4時間以上は6割を超えた。その内深夜勤務ありが半数を占め、1割は常態化している。ほとんどの看護学生が学業に専念出来ない状態にあると言える。

3. この為、アルバイトによって半数の学生が学業へ何らかの支障を抱えており、「心に余裕がない」「体調を崩している」学生もおり、看過できない。

4. 新型コロナ感染予防の為に実習期間前からアルバイトを禁止されている看護学生には、これまで同様学生支援緊急給付金などの支援が引き続き必要である。

全日本民医連

要請事項

1. 「学生支援緊急給付金」について、今年度の制度の継続を求めます。すべての学生を支給対象とすることを求めます。
2. 国際人権規約第13条【教育に対する権利】を誠実に履行し、国の教育予算を増やし、高等教育無償化、補助金の拡充、給付型奨学金を創設し、お金の心配なく誰もが平等に学ぶことができる教育制度への転換を求めます。
3. 医師・看護師など医療職の国家試験で、新型コロナウイルス感染となった場合に国の責任において追加試験の機会を認め、今から準備対応するよう求めます。
また、移動による感染リスクを減らす上でも国家試験の会場を13都道府県に限定せず全都道府県に会場を設置することを求めます。

全日本民医連

全日本民主医療機関連合会

〒113-8465

東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター7階

職員育成部 西村・宮川・安藤・野口

TEL 03-5842-6451

min-ikusei@min-iren.gr.jp

きらり看護 <https://kirarikango.com/>